

2004年(平成16年)6月9日(水曜日)

言 賞 糸 尺 地域 山形2

「日本の里地里山30」コンテスト

「戸沢里地塾」選ばれる

村ぐるみで活動 地元の自然再発見

開発などで失われつつある里地と里山の保全に取り組み三十団体を全国から選んで顕彰する「日本の里地里山30」コンテストの選考結果が発表され、県内から戸沢村の住民グループ「戸沢里地塾」が選ばれた。

戸沢里地塾は、村内で活動する五つのグループの総称。里地塾の代表を務める村立戸沢小の斎藤正昭校長は、「村ぐるみで活動しているところは他にないので、子供に昔ながらの遊びを教えているうちに、地域の大人たちがはまってしまった結果」と笑う。

学校週五日制の導入に伴い、村教委が「地域の子供は地域で育てよう」と小学校のPTAや老人クラブなどに呼びかけたのがきっかけで、二〇〇〇年から各小学校区を中心に大人たちが、地域の良さを児童に伝える活動を開始。それぞれの地域で、山や川の遊び、昔語りなどを通して児童と交流する住民グループが次々と作られていった。

個々のグループは、休耕田を借りて古代米を育てたり、山菜採りや溪流釣りをするなど、週末を中心に活動している。活動は、メダカやホタルの群生地など、これまで知られていなかった地元の自然の再発見にもつながった。これらの希少動植物保護のため、今年五月にはグループ間で専門知識を共有するための組織も発足した。

斎藤校長は、「地域を見直し、『これだったら子供たちに見せたい』と思う自然や文化を守るのが活動の原点。村全体の地域おこしにもつながっていきたい」と意気込んでいる。



小学生と一緒に古代米の稲を植えるメンバーたち

主催 読売新聞社
共催 環境省